行政評価シート（事務事業評価）

評価年度	28年度

事業名	地域に根ざした学校給食推進事業	担当課	教育課
細分化した事業名			

1 計画（PLAN）：事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	将来を担う子どもをのびのびと育むまちづくり
	政策	子どもが夢を持ち続けることができる教育の充実
	施策	学校教育の充実
関連する個別計画等		根拠条例等

2 計画（PLAN）：事務事業の概要

事業の目的	特別活動、総合的な学習の時間等において、食農体験や料理会等の機会を設け、食育推進を図る
事業の手段	・農園での田植えや稲刈り、野菜の栽培・収穫等の作業や、食品加工・収穫物を使った調理を体験する ・事前・事後学習により農業に対する理解を深める ・学校給食において地産地消を推進する
事業の対象	市内小中学校在籍児童・生徒

3 実施（DO）：投入費用及び従事職員の推移（インプット＝費用＋作業）

		25 年度	26 年度	27 年度
A 事業費	（千円）	224	340	355
財源内訳	国・県支出金			
	その他（使用料・借入金ほか）			
	一般財源	224	340	355
B 担当職員数（職員 E）	（人）	0.01	0.01	0.01
C 人件費(平均人件費×E)	（千円）	65	68	67
D 総事業費(A+C)	（千円）	289	408	422
主な事業費用の説明	講師謝金、賄材料費、バス借上			

注）平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した 25 年度（6,491 円）,26 年度（6,794 千円）,27 年度（6,715 千円）を使用しています。

4 実施（DO）：事業を数字で分析（アウトプット＝事業量）

		指標名	指標の算出方法	実績値 25 年度	26 年度	27 年度
活動指標	1	食農体験実施校	市内全校	7	7	7
	2	食農体験時 講師依頼（校）	韮崎小、韮崎西中、韮崎北西小	2	2	3
	3	農場訪問（バス利用）	韮崎西中	1	1	1

妥当性		□ A 妥当である　■ B ほぼ妥当である　□ C 妥当でない
上記活動指標と妥当性の説明	1	総合的な学習の時間や、給食時間を利用し、全ての学校で実施している。
	2	農業に従事している講師に指導してもらうことにより、より実践的な学習ができる。
	3	農場を訪問し、農業生産について知る機会を得ている。

5 評価（CHECK）： 事務事業評価 （アウトカム＝成果・効果）

		指標名	指標の算出方法	実績値		
				25 年度	26 年度	27 年度
成果指標もしくはまちづくり指標	1	給食における地産地消率	地場産食品数／使用した食品数（７校合計）	32.47%	32.57%	33.13%
	2	校外活動として農業生産について学んだ学校	韮崎西中、韮崎北西小	１校	１校	２校
	3					

成 果		□ A 上がっている ■ B ほぼ上がっている □ C 上がっていない
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	「第３次やまなし食育推進計画」におけるＨ３２年目標値の３０%を達成できている。
	2	農業生産の将来について考え、進路選択の一つとして農業を知ることができた。
	3	

事務事業総合評価	□ A 期待以上に達成 ■ B 期待どおりに達成 □ C 期待以下の達成

6 改善（ACTION）：今後の事務事業の展開

今後の事業展開	□ 拡大（コストを集中的に投入する） ■ 一部改善（事務的な改善を実施する） □ 全部改善（内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要） □ 縮小（規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する） □ 廃止（廃止の検討が必要）
事務事業の改善案	改善の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか） 28 年度の改善計画（今後の事業展開説明） ・食育による効果は数値で評価することが困難であるため、嗜好調査や給食残食数の調査等により間接的な方法で成果を測るなどの方法を検討する必要がある。 ・今後も給食における地産地消率の向上に努める。
過去の改善経過	・平成１９年度～ 韮崎西中学校を中心に文部科学省の指定事業として実施 ・平成２０年度～ 栄養教諭を中核に実施 ・平成２３年度～ 県補助は無くなるが単独事業として継続 ・平成２５年度 韮崎小が「やまなし食の安全・安心優良活動表彰」受賞
課長所見	食農体験には様々な効果が期待できるため、継続実施していきたい。